

# 企業訪問 資源循環レポート

株式会社鈴鍵



## 森の守り人として 草木の声に耳を傾け 自然と共に未来を拓く

Biotop 



株式会社鈴鍵

■代表者／代表取締役社長 鈴木 元弘

■所在地／愛知県豊田市中金町塚ノ本111-3

TEL 0565-41-2003 FAX 0565-42-1364



(株) 鈴鍵の丹羽取締役 工事本部長



飯田街道は別名「塩の道」といわれ、三河路と信州を結ぶ重要な街道として栄えました。その街道沿いで明治初期から薪炭及び食品関係の商いを始め、戦中戦後の品不足、薪炭の統制時には東加茂の世話役として現社長鈴木元弘氏の祖父鈴木鍵太郎氏が活躍、その後父親の鈴木知義氏により現在の同社の基礎が作り上げられ昭和34年に「鈴鍵木材」として発足し、昭和54年「鈴鍵木材有限会社」を設立。昭和58年「中部森林開発研究会」を設立、会長に梅村正裕氏が就任。平成元年に「株式会社鈴鍵」に社名変更、翌年愛知県産業廃棄物処理業許可取得。平成10年代表取締役社長に梅村正裕氏が就任、平成12年豊田市一般廃棄物処分業許可取得、平成14年「下山パークパーク」開設、同年代表取締役社長に鈴木元弘氏が就任。

平成20年8月にスタートした(社)愛知県産業廃棄物協会(現(一社)愛知県産業資源循環協会)「初めての試み!!『夏休み親子で環境・資源リサイクル体験ツアー』」における初の見学先が「下山パークパーク」でした。多くの親子連れがバーベキューを楽しみ、ビオトープの散策、ブルーベリー摘みなど夏休みの思い出づくりの地として、今なお参加者の皆様から好評を得ています。

また、日本ビオトープ協会の第1回ビオトープ大賞(自然創出部門)を受賞されています。

同社の歴史ある取組は、令和4年度より運用された「あいち生物多様性企業認証制度」にて「あいち生物多様性優良認証企業」の認証を受けられました。

今号では(株)鈴鍵の取締役 工事本部長の丹羽庸介氏に、認証の概要及び取組についてお話しを伺わせていただきました。

## 取組事例

### ・目的

未来の子どもたちに負の遺産を残さないための  
生物多様性の拠点づくり

### ・背景

設立20年を誇る「下山パークパーク」内には、  
約6,000㎡のビオトープ公園を整備して自生種の  
保護、生物保護を行い地域の子どものための環境学  
習の場として活用されています。

### ・具体的な取組

#### 1.希少種保全

生息する希少種の生息域を侵さない程度に、通  
年を通してビオトープ内の維持管理作業を行っ  
ています。

#### 2.外来種駆除

年3回施設内ビオトープの外来種駆除を行っていま  
す。また、外来種駆除の講師として参加しています。

#### 3.保全活動

毎年ビオトープの整備を行い多くの生物が生息  
できる空間を創出しています。

#### 4.普及啓発

年6回施設見学の来園があり、環境についての  
パネル展示を併設しています。また、社員研修  
及び児童に向けてビオトープを活用した環境教  
育を実践しています。

### ・関連するSDGs



平成14年地元小学校の卒業式



平成20年8月第1回親子ツアーで訪問



平成24年の生物調査



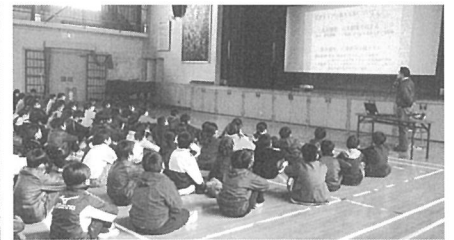
平成24年職員による勉強会



平成24年企業ビオトープ外来種駆除参加



豊田市の小学校へのビオトープ創出



豊田市の小学校における環境学習

### ・今後の展望

行政・企業等への提案（ビオトープネットワーク  
の拠点づくり）が現実化しつつありますので、多  
くのビオトープを都市部に創出し、子どもたちが  
身近に感じられる自然を増やし育てていきます。  
さらに企業などに創出したビオトープを活用し、  
地域の子どもたちへの環境教育に生かせるよう連  
携を図っていきます。

## 認証を取得して

カーボンニュートラルと共に生物多様性は世界に  
おける重要課題です。私たちは企業の発展を追求し  
ますが、その事業活動の中に、この問題の解決の糸  
口を組み込めるものであれば、積極的に取り組まな  
ければなりません。今後、多くの企業の皆様が「あ  
いち生物多様性認証制度」を取得されていくことが  
重要であり、弊社はより多くの企業の皆様に周知し  
て頂くためにも、生物多様性の重要性を提案してい  
きたいと思っております。

最後に丹羽取締役は、「廃棄物が野焼きされてい  
た時代に、前梅村会長は外国製の破碎機を見ていち  
早く導入し、伐採事業に取り入れました。その頃、  
鈴木社長は環境について学ぶためスイスに渡欧し、  
ビオトープや近自然工法について感銘を受け、帰国  
後造園業に取り入れ、国内でも先駆けてビオトープ  
事業に着手しました。また、当時スイスと一緒に  
行かれた行政の方から、豊田市にある公園を自然化し  
ましようというお話をいただき、水を得た魚のよう  
に習得した技術を余すことなく生かしたビオトープ  
を創り上げました。後にその公園は土木学会デザ  
イン賞にて最優秀賞を受賞しました。以降、近自然工  
法のパイオニア的存在となり、教育現場、公園、公  
共イベント等にてビオトープの普及啓発を実践して  
きました。昨年「あいち生物多様性企業認証制度」  
において“優良認証企業”に認定されたことにつ  
きましては、これまでの長年の活動が実を結んだよ  
うで胸に響きました。」と語られました。  
丹羽取締役は協会事業において、産業廃棄物の資  
源化に向けた積極的な提案をされるなど、同社で  
培われた理念を多方面に発揮されています。